

ほうでえ～

ありゃ～のう

周防大島町の話題



水耕栽培の試験を行っています

周防大島町定住促進協議会では、町への移住を推進するため、空き家バンクの充実など『住』の確保と、経済的自立のため『職』の検証を行っています。『職』の検証の一方策として、廃校となった旧屋代小学校を利用し、水耕栽培の試験に着手しています。

2月5日には、1月8日に種をまいた2種類のレタスの生育確認が行われました。水耕栽培では室内温度を23～25度、湿度を60%程度に保ち、LEDの照明などを使用して野菜などを育てます。

5日には、ミニキャロットやラディッシュの種などもまき、今後は成長の速さなどのデータを収集し、品種に適した栽培条件などを検証していきます。

▲2月5日
生育状況を確認する
椎木町長



◀約1か月で
育ったリー
フレタス

義援金を被災地へ

椎木町長へ義援金を手渡す、学生会長嶋優樹さん（写真中央）、学生副会長平原直人さん（写真右）。



地域おこし協力隊員へ委嘱状交付

2月1日、大島庁舎において地域おこし協力隊員へ委嘱状が交付されました。



町では、移住を希望される方や移住された方との連絡調整や、情報発信による活動のPR、移住希望者の呼び込みなどを推進するため地域おこし協力隊員を公募し、このたび東京都から三浦宏之さんが着任することになりました。三浦さんは「自分自身が周防大島での暮らしを楽しみ、定住促進につなげていきたい。」と意気込みを話してくれました。

2月14日、大島商船高等専門学校の学生会が昨年に引き続き、東日本大震災の義援金を町へ届けました。

今回届けられた義援金は昨年11月3日に開催された商船祭での模擬店の売上の一部などで、7万786円。学生会長の嶋優樹さんは「今年も引き続き募金活動を続けていきたい。」と抱負を語りました。